

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立致遠館中学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校の教育目標に沿った重点目標の実践に向け、具体的方策を策定した。生徒の成長を促しながら実態に応じた適切な指導、支援を重ねた結果、概ね良好な成果を上げることができた。学校運営についても、組織改編と業務の精選、分散化を図り、働き方改革の一環として時間外労働を大きく削減することができた。 ・次年度への課題としては、目標とする数値をクリアできていない項目があり、その検証を行いながら改善を進める必要がある。生徒の主体性を育てるために必要な学校としての教育力を高めるべく、教職員の資質向上を図っていく必要がある。また、働き方改革をさらに進め、業務の負担軽減や職場環境づくりに努める必要がある。
2 学校教育目標	世界中の日本人として、未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、豊かな人間性と進取の気性に富む若人を育てる。
3 本年度の重点目標	①「知・徳・体」のバランスをとりながら、生徒の生きる力（自ら判断し、行動する力・困難に打ち勝つ力）を育てる。 ②生徒が学習・部活動および課外活動において、意欲的かつ主体的に取り組むことを目指す。 ③生徒が主体的に進路を選択できる力を育て、個々の生徒のキャリアプランを進める。 ④教職員が互いを認め合い、高め合うことができる働きやすい職場づくりを目指す。 ⑤教職員の1ヶ月の時間外在職等時間を4.5時間以内とし、働き方改革を進める。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目			最終評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を80%以上にする。	・少人数授業やTTを実施することにより、個に応じた指導を行う。 ・補充学習や発展的学習を積極的に取り入れる。	A	・12月の佐賀県学習状況調査の結果、全学年・全教科、高い正答率であった。 ・少人数授業やTTを実施することにより、個に応じた指導ができており、また補充学習や発展的学習の実施により、学力向上につながっている。
	○基礎学力の充実	○生徒による授業評価を実施し、授業に対する満足度・理解度を80%以上にする。	・復習用の課題や確認テストなどを活用し、学習の定着を図る。 ・定期考査や模擬試験などで学習の定着度を把握し、実態に応じた指導を適切に行う。 ・生徒による授業評価を実施し、その結果に基づいて、授業の改善を行う。	A	・課題や確認テスト、定期考査などをとおして、学習の状況を把握し、一人ひとりの生徒に合わせた適切な指導を行うことができた。 ・学習状況調査をとおして、生徒の学習状況を把握し、学習指導や授業の改善を行い、成果をあげた。
	○自発的学習習慣の定着と宅習の充実	○平日2時間、休日4時間の週18時間以上の家庭学習時間を確保する。	・家庭学習状況を把握し、適切に指導を行う。 ・学年、教科が連携して計画的に課題の量を調整し、生徒に提示する。 ・ICTを活用した効果的な学習指導法を追究する。	A	・Classiや日々の記録などを用いて、学習状況を把握し、適切な指導を行うことができた。 ・学年と教科が連携し、適切な量の課題を提示することができた。 ・オンライン授業を見越した授業準備や職員研修を行うことができた。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。 ○図書室の貸出冊数を一人20冊以上にする。 ○生徒が豊かな心を身につける講演会を年1回以上行う。	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施。 ・図書委員会の活動をおとて図書室の利用を促進し、読書の啓発活動を行う。 ・各学年会・生徒指導部会・教育相談部会を定期的に開催し、情報共有を行う。	A	・図書室の貸出し冊数は、2月10日時点で総数は8,576冊で、一人当たり約24冊であった。 ・各学年会・生徒指導部会・教育相談部会を定期的に開催し、情報共有を行った。 ・教育相談部会では、月1回「キャリアリングシート」を活用して生徒個々の支援の基立を考慮し、生徒の状況に応じてケース会議を開き、情報共有に役立った。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ重大事案の件数を0にする。 ○いじめを的確に把握するために、状況把握調査を年2回以上行う。 ○いじめが認知された場合は、生徒のケアや指導を迅速かつ組織的に行う。	・各学年や各クラスの職員による見守りを強化する。 ・状況把握調査(年2回)および生活アンケート(毎週)の実施。 ・関係分掌や関係諸機関との連携を図り、生徒のケアや指導を組織的かつ継続的に行う。	A	・いじめによる重大事案は起きなかった。 ・担任団・各学年団が連携して生徒の見守りを行った。 ・標準様式によるいじめアンケート(年2回)と法によるいじめアンケート、および生活アンケート(毎週)を実施し、速やかに対応した。 ・関係分掌や関係諸機関との連携を図り、生徒のケアや指導を組織的かつ継続的に行った。
	○人権・同和教育の推進	○「人権が尊重され生活できている」と感じる生徒を100%にする。 ○新たな人権課題を把握し、解決しようとする姿勢を養う。	・「人権意識に関するアンケート」の実施。 ・職員研修を実施し、職員の人権・同和教育に対する意識を高める。 ・各教科、特別活動における人権学習を充実させ、生徒の人権意識を高める。	A	・職員研修を実施し、職員の人権・同和教育に対する意識を更に高めることができた。 ・関連する教科の授業や特別活動で人権学習を実施した。とりわけ生徒主体の人権学習を進め、人権意識を更に高めることができた。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○睡眠・食事についての指導を推進する。朝食喫食率を95%以上にする。 ○「健康に食事は大切である」と考える生徒を100%にする。	・保健だより等で睡眠・食事に関する指導を推進する。 ・朝食喫食率調査やミルク給食等をおとて食育を推進する。 ・生活ノートの記入を徹底し、指導に有効活用することで、規則正しい生活習慣の定着を図る。	A	・保健だよりを毎月発行した。今年度はコロナ予防策について、あらゆる視点から掲載したが、栄養を摂り、抵抗力を上げるために食事の重要性についても記載した。 ・中学2年生を対象に、食事の重要性についてのアンケートを取ったが、98.3%が大切だと感じている。睡眠の重要性については100%、運動の重要性についても100%大切だと感じている。 ・生活ノートや普段の指導をおとて、規則正しい生活習慣を確立させた。
	○部活動(社会体育を含む)や課外活動への意欲的な参加	○部活動(社会体育を含む)への参加率を90%以上にする。 ○部活動計画に基づく休養日の実施率を100%にする。	・部活動紹介のパンフレットなどを作成し、体験入り期間を設けて加入を促進する。 ・ボランティア活動等の課外活動への参加を促す。 ・部活動休養日調査を毎月行い、「部活動の在り方に関する方針」に沿った休養日の設定を徹底する。	B	・社会体育を含む部活動加入率は95.2%であった。 ・県の定める指針に基づいて、部活動休養日を設定することができたが、全体の達成率は98%であった。 ・決められた活動日の中で、運動系、文化系とも活発に活動を行い、成果を上げることができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・週1日は定時退勤日を設ける。 ・業務記録を週ごとに確認し、職員の時間外在職等時間の自己管理を徹底する。 ・1年を通して更なる会議や行事の縮減を図る。 ・メール等を活用した会議を促進し、業務の効率化を図る。 ・「部活動の在り方に関する方針」を遵守し、適切な休養日を設ける。	A	・週1回の定時退勤日を設定し、定時退勤を促すことができた。 ・日報や職員会議、朝礼を利用して職員の時間外在職時間の自己管理を促し、結果として月ごとおよび2～8ヶ月平均値も大幅に改善された。 ・会議の縮減も行われた。
	○教職員間の信頼・連携の強化と働きやすい職場づくり	○「働きやすい職場である」と考える職員が90%以上。	・職員アンケート(年1回)の実施。 ・ハラスメント研修(年3回)の実施。 ・月1回のゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚を再確認する。 ・校内での職員の相談体制の周知徹底。 ・衛生委員会の充実。	A	・職員アンケートの結果、働き方改革への取り組みはまだ必要である。 ・ハラスメント研修も各学期ごとに実施することができた。 ・月1回のゼロの日の設定で教育公務員としての自覚を促すことができた。 ・衛生委員会を毎月開催し、活発な意見が出たことでよりよい学校づくりの一助となった。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度 (評価)	実施結果
○中高一貫教育の充実	○中高6年間を見通した教育課程の編成と実践	○必要な基礎学力・応用力の育成。 ○キャリア教育の中高連携を見通した教育課程を検討する。	・週1回のキャリア部会や月1回の中学校連絡会で課題を検討する。	A	・年間をとおして、キャリア部会や中学校連絡会を実施し、効率よく課題の検討・改善を行うことができた。 ・次年度に向けたキャリア教育全般の見直し・検討を行い、年間計画の見直しを行うことができた。
	○中高6年間を見通したキャリア教育の充実	○学校評価アンケート「中高一貫校の特色を感じるか」「生徒に応じた進路指導をしているか」において肯定的な回答をした生徒をともに80%以上にする。	・学校評価アンケート(年1回)の実施。 ・週1回のキャリア部会や中高職員の共通理解を図り、キャリア教育事業の効果的な運営に努める。 ・ピックアップ面談等を通じ、進路選択に関して個に応じた適切な指導を行う。	A	・コロナ感染予防のため予定されていたキャリア教育関連事業の中止や変更があったが、臨機応変に対応することができた。 ・キャリア教育アンケートにおいて、1年間の学習をおとて「働きたい」「自分の将来について考えることができた割合はともに85%以上であった。
◎志を高める教育	○主体的行動と自律心の養成	○「さがを誇りに思う教育」を推進し、「佐賀に愛着を持つ」生徒を80%以上とする。	・総合的な学習時間や学校行事等をおとて、郷土に関する学習を実施する。 ・エリアスタディやボランティア活動によって地域との連携を深め、郷土のことを知る機会を設ける。	B	・総合的な学習の時間をとおして地域へのボランティアやエリアスタディにおける地域学習を進めることができた。一方で、コロナ感染予防の校外活動などが制限され、十分な地域学習を行うことができなかった。
	○SSH事業の活用	○「Jr. 課題研究」や教科「探究基礎」で、実験や調査等での失敗をもとに教訓を作り、主体的な学びに活用した経験のある生徒を80%以上にする。	・「Jr. 課題研究」や教科「探究基礎」で、観点「失敗から学ぶ力」を含むルーブリックを活用して学習指導に取り組む。	B	・総合的な学習の時間をとおして、行き詰まりを経験したことで今後の学びに向けた教訓を作った。その教訓を課題研究・探究活動、教科・科目の学習、学校行事、部活動等に活用するよう指導を行い、経験を活用して自ら学ぶことを生徒に啓発することができた。
○教育の質の向上	○授業改善の推進と徹底	○学期に1回は相互に授業を参観し、授業の改善を行う。	・授業参観等を積極的にし、授業の改善を行っていく。 ・生徒による授業評価を実施し、その結果に基づいて、授業の改善を行う。	B	・コロナ感染予防のため、公開授業を行うことは難しかったが、リモート授業や配信などを活用し、改善していきたい。 ・生徒による授業評価アンケートを実施し、その結果を授業改善につなげることができた。
	○ICT活用教育の推進	○主体的に情報を収集し、発信できる生徒を100%にする。 ○ICTを活用して、知識・技能を深め、自らの資質向上に生かそうとする生徒を80%以上にする。	・ICT成果指標の達成のために、適切な指導を行う。 ・「エリアスタディ」や「Jr. 課題研究」等を通じて、情報収集力・分析力・プレゼン力を育成する。 ・ICTを活用した発表等の資格取得のための学習や、部活動での活用推進に取り組む。	A	・生徒全員がICTを活用して、情報を主体的に収集・整理・分析し、成果をプレゼンテーションや報告書にまとめ、発表することができた。 ・すべての生徒がキャリアパスポートを用いて自らの振り返りができた。振り返りを活かすという点については、今後の検証が必要である。 ・部活動では、データの蓄積や分析、自己チェック、トレーニング法の入手、ハイレベルな競技者から学ぶ等が見られ、資質向上での活用が進んだ。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・学校の教育目標に基づいた本年度の重点目標は概ね達成できているといえる。 ・次年度に向けて、本年の取組をさらに深化させ、「知・徳・体」の充実に合わせた教育活動を展開していきたい。 ・本年度の課題を精査し、各種業務を精選・改善することで、行き届いた教育活動につなげたい。また、働きやすい職場づくりや働き方改革を推進する。</p>
----------------	--